

平成23年度第1回岡山県男女共同参画審議会 議事概要

(開催概要)

- 1 開催日時：平成23年8月3日（水）13:30～15:30
- 2 場 所：ピュアリティーまきび 橋の間
- 3 出席者：
 - 委員（五十音順、敬称略）／出席13名
青樹 恭、池上 淑恵、景山 貢明、菅田 茂、澤井 倫子、
新谷 博美、西平 幸代、濱田 栄夫、藤原 忍、松井 圭三、
松井 めぐみ、松田 正己、山本 賢昌
（欠席2名／沢山 美果子、吉岡 誠）
 - 事務局（県）／出席6名
県民生活部長、男女共同参画青少年課長、男女共同参画推進センター（ウイズセンター）所長、事務局（男女共同参画青少年課）職員

(議事次第)

1 開 会

(1) 県民生活部長あいさつ

平素から男女共同参画社会の形成をはじめ、県政の推進に格別の御理解・御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年度は「第3次おかやまウイズプラン」の策定にあたり、豊富な御経験と高い御見識に基づく御意見・御提言をいただくなど多大なる御尽力に感謝申し上げます。

本日は、平成23年度の男女共同参画関係事業と新おかやまウイズプランの数値目標の進捗状況を報告させていただく。

男女共同参画社会の実現のために必要な取組が明らかとなり、少しでも県民の皆様への期待に応える施策が推進できるよう、忌憚のない御意見・御提言を賜りたい。

2 議事概要

議事（1）平成23年度男女共同参画関係事業

（2）新おかやまウイズプランの数値目標進捗状況（速報値）

男女共同
参画青少
年課長
男女共同
参画推進
センター所長

昨年度策定した第3次おかやまウイズプランを推進するにあたっての今年度の事業概要について説明。

また、新おかやまウイズプランの数値目標の進捗状況の速報値について説明。

感想、質問、意見等

会長
(司会) ただいまの説明について、質問や感想等も含め、御意見をいただきたい。

委員 以前から男性への意識啓発に重点を置いているとのことだが、先ほどのウィズセンターの事業報告の中で、男性の出席率が高くなっている。年齢層・職業・リピーター率はどのようになっているのか？
また、スーパービジョンのスーパーバイザーの選定理由を具体的に教えてほしい。

男女共同
参画推進
センター所長

男性の出席状況

平成23年2月から5月まで、ウィズカレッジ講座で男性にも参加しやすい講座を実施した。50～60代が中心だが、講座の内容によっては20代もいる。今年度4～6月に実施したウィズカレッジ講座は土曜日に開催したこともあり、勤めをされてる方にも参加をいただいた。リピーター率については、はっきりした数字は手元にないが、何度か来られている方、誘われて初めて来られた方、親の介護を始めた方、退職後に地域活動を始めた方などに参加いただいた。

スーパーバイザーの選定

ウィズセンターの相談員が非常に複雑かつ深刻な事例を扱うことが多く、その事例の検討や相談員のメンタルヘルス対策を主な目的としている。センターの相談員の希望も聞きながら、ゼミナールの講師としてもふさわしいと思われる方をセンターで選定している。

委員

ウィズセンターの事業や講師が、岡山市のさんかく岡山との内容が似ているが、岡山市との調整はどのようになっているのか。

また、住民生活に光をそそぐ交付金事業について、民間支援は重要ではあるが、DV被害者の今後の生活・住居・仕事をどうするのかなど、市町村の福祉施策との関係は大切である。ウィズセンターと市町村福祉施策との連携はどのようになっているのか。

加害者の視点がないが、加害者が反省し更生して家族の再生を図ることも大事である。加害者への支援についてはどのようになっているのか。

男女共同
参画推進
センター所長

岡山市との調整

岡山市を含む県内6市に男女共同参画推進のためのセンターがある。連携を図るための会議を年4～5回開催しており、事業の進め方の相談をしているが、ウィズセンターの役割として、講師の紹介等もあるため、結果として似た内容の講師や事業となることもある。ウィズセンターは、地域リーダーの養成、市町村の新任職員の育成などを行うと共に、岡山

市以外の地域への出前講座を増やしていこうと思っている。

市町村福祉施策との連携

一時保護から自立した生活への支援としては、市町村の福祉施策との連携は必須であり、そのあたりは一時保護を行っている女性相談所が中心となって行っている。ウィズセンターでは、警察や裁判所と連携することが多いが、相談内容によって、例えば子どもに関することについては、市町村の児童福祉や母子福祉施策担当部署と直接連携している。また、ウィズセンターや女性相談所の会議等にも、市町村福祉関係者も入っているため、連携はできているものと考えている。

事務局

加害者の更生

数年前に内閣府が、東京都と千葉県に委託し調査研究を行ったが十分な成果が得られていない。県としては国の動向を注視しながら施策を進めてまいりたい。また、男性相談の実施方法について研究を進めてまいりたい。

会長
(司会)

加害者の更生については、前の新おかやまウィズプランの時にも話に出たが、まだ調査研究中とのこと。他には何かありませんか。

委員

数値目標の女性のがん検診の受診率について、これは市町村実施の検診受診率と聞いている。難しいかもしれないが、これに職場や病院での検診受診率をあわせることが出来るのであれば、もう少し数値があがるのではないか。そのあたりを把握する方法はないのか。

女性の育児休業取得率について、育児休業を取りたかったが非正規雇用であるから、あるいは企業の制度が不十分であるからなどの理由で辞めてしまった方はこの数値に入らないのか。

男女共同
参画青少
年課長

女性のがん検診の受診率

ウィズプランの数値目標は、毎年数値の把握が可能なものを目標に設定するようにしていることもあり、市町村で実施する検診受診率を採用している。確かに病院や職場のでの検診受診率も含めることができると数値はあがるかもしれないが、把握することができないためこの数値としている。

女性の育児休業取得率

この数値は、常用労働者30人以上の企業を対象に3年に1度行っている調査である。また、辞められてしまった方については、この数値には入っていない。

委員

途中で辞めざるを得なかったことが一番の問題である。それを把握できるのであれば把握し、それに対する対策が大事であると思う。

委員

最近、業種や組織に入らない1人や数人で頑張っている女性起業家が

	<p>増えており、その女性起業家の社会進出が進み、地域への貢献は非常に大きい。その起業家たちは家族や地域の助けがなくてはやっていけないため、社会の中でもっと支援をしていき、女性にもっと進出してほしい。ウィズプランの中でもっと積極的に取り組んでいていただきたい。</p>
男女共同参画青少年課長	<p>ウィズプランの中に「起業を志す女性への支援」ということで支援計画を掲げている。新たな隙間の分野に多くの女性も進出されていると認識している。県では、産業振興財団と女性起業家との交流会を開催するなど、今後も県を上げて支援していく。</p>
委員	<p>男性や若年層への意識改革のための協働事業や講座の実施はよいことで、これに出て来て勉強される方は問題ないが出て来ない方へどう伝えていくのか。地域に出て出前講座する場合、そのあたりははどうやってするのか。</p>
男女共同参画推進センター所長	<p>若年層に対しては、ストップDV講座ということで、学校へ出向き、できるだけ全校生徒や先生全員に、デートDVだけでなく、男性や女性に関わる人権の話もしている。興味のある方だけに来ていただくだけでなく、全員の方に聞いていただくことが大切だと思う。市町村にウィズセンターをもっと活用していただき、もっと地域に出て行けるようにしたい。</p>
会長 (司会)	<p>デートDVに関連して、岡山県の20歳未満の中絶率が一時期に比べて下がってはいるが高いように聞いている。そのあたり、もしわかっていれば教えてほしい。</p>
男女共同参画青少年課長	<p>平成20年の岡山県の人工妊娠中絶実施総数は4,362人、そのうち20歳未満は422人。人口千人あたりは岡山県10.9人、全国8.8人。20歳未満の人口千人あたりは岡山県9.2人、全国7.6人と全国に比べると高くなっている。また平成12～16年は13～16人台と一時期よりは数値は低くなっている。</p>
委員	<p>数値目標の農業委員の女性比率について、何か工夫をしないと目標の5%は厳しいのではないか。かつて私も農業委員をしたことがあり、農業の抱える諸課題・諸問題は非常に難しいものがある。そのあたりどう工夫をしていくのか。</p>
男女共同参画青少年課長	<p>農林関係部でも啓発していただいているが、平成22年の全国順位は岡山県は47位。これまで農業委員681人のうち女性は倉敷市1人、真庭市2人、勝央町1人の4人だったが、岡山市の今年の選挙で女性委員が選ばれたと新聞に掲載されるなど、今年の7月の選挙では女性が</p>

	30人就任されたと担当課から聞いている。これからも啓発に努めてまいりたい。
事務局	女性農業委員30人の内訳は、岡山市6人、倉敷市・玉野市2人、井原市3人、総社市2人、新見市1人、備前市3人、真庭市2、新庄村1人、鏡野町・勝央町2人、久米南町1人、美咲町3人となっている。
委員	目標が達成できるのではないか。
男女共同参画青少年課長	目標が達成できるかどうかは不明だが、農業分野の女性比率も全国的に上がってきていると思われるため、追いついていきたいと考える。
委員	住民生活に光をそそぐ交付金事業について、国1千億円のうち岡山県が4,300万円とのことだが、全てがDV対策に充てられているのか。そして、これまでの予算とは別についているのか。 また、DV相談件数はどれぐらいあるのか。
男女共同参画青少年課長	DV対策予算 これは3年間の合計の予算額である。 DV相談件数 平成22年度における配偶者暴力相談支援センター及び警察での相談件数は3,531件、女性相談所のDV一保護63人と18歳未満の子ども78人、警察署での一時保護34件となった。裁判所での保護命令は71件であった。
委員	市町村ごとの相談件数とかはわかるのか。
男女共同参画青少年課長	市町村ごとの件数は不明であるが、県下の相談機関としては、警察署の他に、岡山市には女性相談所・ウィズセンター・岡山市のさんかくおかやま、倉敷市には倉敷市のウィズアップくらしきがある。
会長 (司会)	一時保護については、県内でできるのか。県外に行かないとできないということはないか。
男女共同参画推進センター所長	一時保護は、緊急性のあるものを、場合によっては警察も利用し、基本2週間保護するもので、県内だからできないというわけではない。一時保護から退所する時、そのまま県内に退所するのは難しい場合があるとは聞いている。
委員	岡山市もそうだが県も男女共同参画審議会がDV一色となっている。

	<p>国からも多額の予算がおりてきているが、DV対策をすればするほど、DVの原因となる男女共同参画の意識改革から逸れていっているような気がする。男性を加害者としてしまうなど、どんどん男女共同参画からずれていっているように思われ、男女共同参画とDV対策が一緒になるのはどうかと思う。</p>
男女共同参画青少年課長	<p>施策の基本は性別にとらわれることなく、男も女も個人として尊重され、自分の個性で生活や仕事ができ認められることだと思っている。国の方で住民生活に光をそそぐ交付金ができ、これまでDV対策が特に何もなかったのが、国が動き始めた。DV一色にはならず、これからも男女共同参画の啓発にもより一層努めてまいりたい。</p>
委員	<p>ゼミナール講座は平日午後、男性への講座は土曜日午後、DV防止講座は学校単位で開催しているとのことだが、働く女性への講座が置き去りにされているように思う。働きながらも、自分の性に違和感を感じている女性が平日に積極的に講座を受けることは出来ないため、県が男女共同参画に理解のある企業等と提携し、直接出向くなどして講座を開催し、多くの方に男女共同参画を知っていただく機会を設けてみてはどうか。</p>
男女共同参画推進センター所長	<p>土曜日の講座は男性向けに企画したが、参加者の半数は女性である。ゼミナールは市町村の方や地域リーダーの方が参加しやすい平日に開催している。働いている方々への情報提供が不足していると感じており、今年度からウィズセンター運営委員会委員に中小企業同友会の方になっていただき、企業への働きかけについて検討している。</p>
会長 (司会)	<p>企業への講座が広がると、もっと聞きやすくなりますね。他には何かありませんか。</p>
委員	<p>以前、他県で男女混合名簿が問題となったことがあり、学校での男女平等教育が少し気になる。</p> <p>先日、県議会を傍聴した時に、女性の管理職が非常に少ないと思い心配になった。もう少し女性が増えてほしいと思う。</p> <p>市町村でウィズプランを取り組んでもらうにあたり、小さい市町村では担当者が様々な業務を担当していることもあり、置き去りにしてしまうような気がするので、市町村へも働きかけをしっかりとっていただきたい。</p>
県民生活部長	<p>県の女性管理職</p> <p>現在、県での女性の採用割合は4割程度だが、我々が県へ入ったころは男女雇用機会均等法の前で女性が1割もいなかった時代である。部長</p>

	級の女性は2人ほどいるが、現在、部長級に占める女性の割合は圧倒的に少ない。もう10年程すると女性の部長級も増えてくるものと思われる。そのあたり御理解いただきたい。
会長 (司会)	前回の審議会の時に、男性職員が育休を取るかもしれないという話があったが、実際に育休は取ったのか。
男女共同 参画青少 年課長	詳しい情報はないが、1人育休を取ったようだと聞いている。しかし、県で育休を取ると給料が支給されないことから、長期間となるとなかなか取りにくく使いにくい制度であり、実際は、年休や特別休暇を活用し、育児に従事している職員が多いようである。なお、先日の新聞に、人事院では公務員が育休を1日とってもボーナスを査定しないような記事が載っていたので、それが実現すると育休を取得する職員が増えるものと考ええる。

議事(3) その他

- ・平成23年度女性のチャレンジ賞特別部門賞(内閣府特命担当大臣表彰)の受賞について
- ・第3次おかやま夢づくりプラン(仮称)骨子

男女共同 参画青少 年課長 事務局	内閣府が実施する平成23年度女性のチャレンジ賞特別部門賞(内閣府特命担当大臣表彰)について、この6月に本県から「特定非営利活動法人吉備野工房ちみち」が受賞されたことを報告。 また、岡山県政の指針となる計画「夢づくりプラン」について、現在、平成24年度からスタートさせる第3次プランの策定を進めており、先日発表した骨子を説明。
----------------------------	---

感想、質問、意見等

会長 (司会)	ただいまの説明について、質問や感想等も含め、御意見をいただきたい。
委員	あまにも抽象的すぎる。
委員	国があって地方自治体がある。県で何かやろうと思うと県はある程度自由に言えるが、実際に動くのは現場の市町村であるため、市町村の責任は重たい。地域・地元に着したプランであってほしいため、絵に描いた餅にならないよう、情報は早く発信してほしい。
委員	骨子のため、これから盛り込まれると思われるが、食の安全安心に関するところに、福島原発事故のことでわかるように、県内のことは

県内産で賄えるよう地産地消を進めるような安全安心も盛り込んでもらいたい。

また、農業の担い手について、担い手は若い人と感じるが、担い手は女性でも定年退職者でもなれるものであるため、そのあたりも忘れず盛り込んでもらいたい。

委員

漠然としすぎて意見が出ないと感じた。これから具体的になっていくとは思いますが、今、桃がおいしい季節であり、岡山にはおいしい果物がたくさんある。宮崎がそうであったように、メディア使ったPRの効果はとても大きい。男女共同参画の推進をこれだけしているのに、市民が知らないのはもったいないと感じた。みんなにアピールすることは大事であるため、費用はかかるけれどもメディアを活用するPRは大事であると思う。

検診についても、知らない人が多すぎる。回覧板で回ってくるが中を見ずに印を押して次に回して素通りし検診率が上がらないのだと思う。数年前に5年に1度の無料クーポン券が出たが、無料クーポン券対象の人は検診を受ける。無料券の効果は大きい。何かをするには費用がかかり、率を上げようと思うと、より費用をかけなくてはならないと考える。検診対象者一人ひとりに案内が届けるようにしたら検診率があがるかもとも思う。

中絶率は岡山県が高いとのことだが、避妊教育がうまくいっていないところは中絶率が高い。東京など都会では避妊教育がしっかりしているから率が低い。上村先生は避妊教育をよく頑張られている。

啓蒙活動をしっかりし教育することは大事であり、メディアを上手に活用することも大事と思う。

委員

あまりにも総論的で政府のマニフェストかと思った。知事が何がやりたいのかを知りたい。中期構想と長期構想とあるが、この1～2年で岡山県が何をやらなくてはならないのか明記してほしい。4章のプランの進め方は非常に重要であるため、もっと具体的にしていってほしい。行動計画は行程表みたいなものがあればいいと思う。

— 終了 —